

中域ディスクドッジトーナメント

MID RANGE
DISC DODGE
TOURNAMENT

2024年度 小学生関東王座決定戦



大会報告書

2025年4月14日

DBJA Dodge
Bee of
Japan
Association

日本ドッジビー協会

駒沢オリンピック公園総合運動場 【全体図】

交通案内

- 東急田園都市線 駒沢大学駅下車 徒歩15分
- JR渋谷駅下車 西口31番乗り場より 東急バス(渋11系統 田園調布行き)約30分「駒沢公園東口」又は「東京医療センター前」下車
- JR恵比寿駅下車 西口三井住友銀行前(4番乗り場)より 東急バス(恵32系統 用賀駅行き)約25分「駒沢公園」下車

駐車場

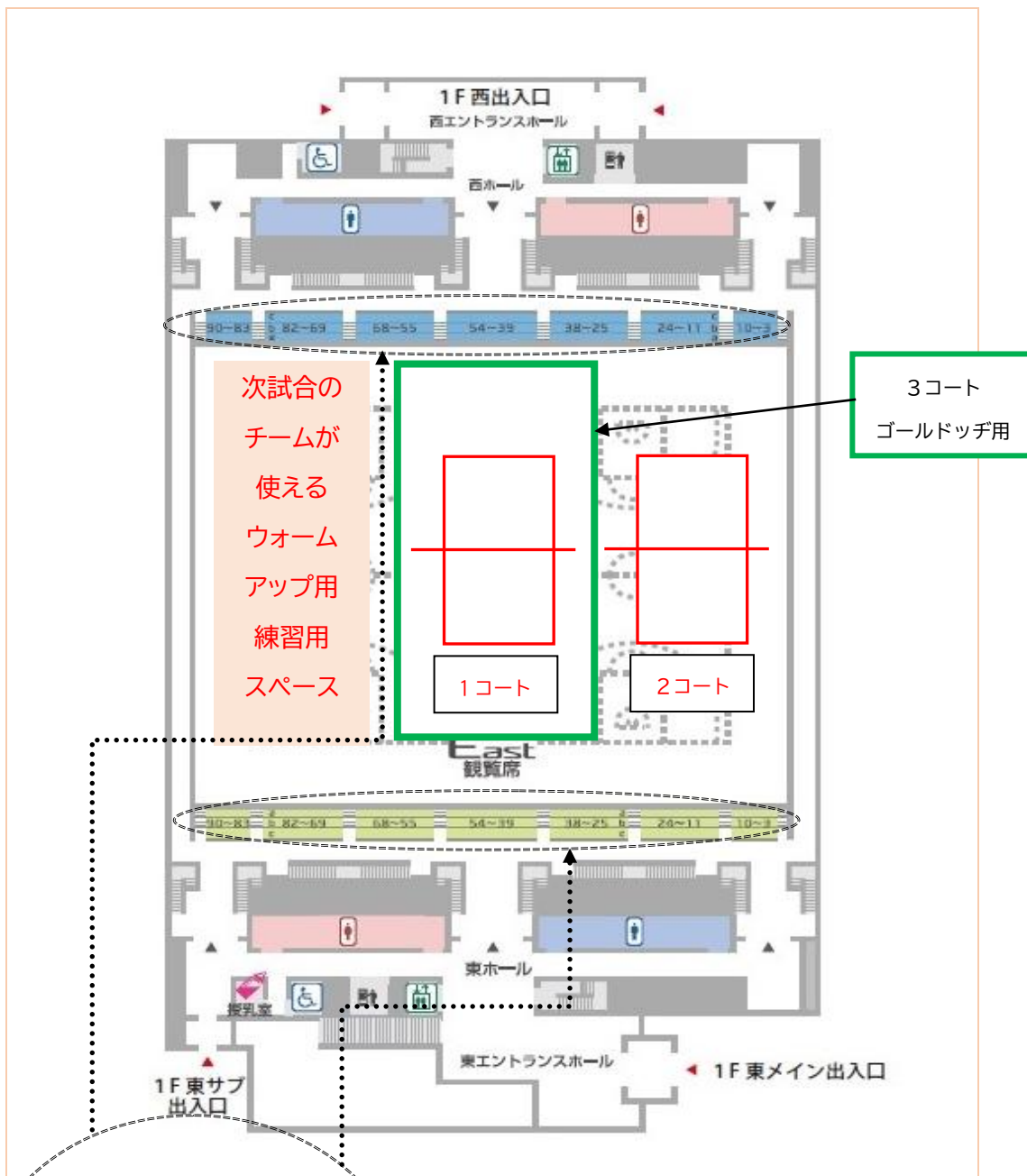
有料(専用駐車場 普通車 61台、きりんさんパーキング 普通車 225台)

競技会等で専用利用される団体は、駐車券を発行いたしますので打合せ時にお申し出ください。なお、東京都公園協会の有料駐車場については、下記にお問い合わせください。

(陸上競技場横第1駐車場 181台 ☎03-3422-0288
テニスコート前第2駐車場 42台 ☎03-3422-2166)



駒沢オリンピック公園 屋内球技場【アリーナ面コート図】



1F観覧席(観覧席の前3列)は東西ともに荷物を置くなどの占有はNGとして対戦中チーム関係者が試合ごとに交替で観戦することを想定したスペースとした。



【大会の概要】

名称 中域ディスクドッチトーナメント 2024年度 小学生関東王座決定戦
日時 2025(令和7)年3月28日(金曜日) 10:00~17:30
場所 駒沢オリンピック公園総合運動場 屋内球技場
 〒154-0013 世田谷区駒沢公園 1-1 TEL03-3421-6199
主催 一般社団法人日本ドッチビー協会(DBJA)
後援 東京都
協賛 文化シャッター株式会社
 株式会社ラングスジャパン
 株式会社ミカサ
協力 一般社団法人日本フライングディスク協会



【募集結果】

2025年3月28日開催 2024年度 小学生関東王座決定戦

ディスクドッチ部門

	地域	市区町	選手人数	チーム名
1	東京① 前回準優勝	荒川区	19	west6
2	東京②	千代田区	11	お茶の水K.S.C
3	東京③	調布市	12	国領ゴリラパワー
4	東京④	調布市	11	石原おにぎりボンバー
5	東京⑤	足立区	15	ヒビケIII(スリー)
6	神奈川県	川崎市宮前区	13	オレがついてるぜ!!
7	埼玉県	越谷市	16	越谷市ドッチビークラブKDC
8	群馬県	邑楽郡邑楽町	19	新☆中野
9	茨城県①	鉾田市	14	桜山子ども会
10	茨城県②	常陸大宮市	17	常陸大宮市美和子ども会
11	東京⑥	武蔵野市	16	M.D.Cベディ
12	東京⑦	荒川区	14	ドリーム☆ファイターズ
13	東京⑧	荒川区	25	峡田ドッチビークラブ
14	東京⑨	調布市	12	石原ブラックサンダー
15	東京⑩	調布市	11	染地ライトニング
16	東京⑪	調布市	10	深大寺ドッチビーサークルベアーズ
			235	

ゴールドドッチ部門

	地域	市区町	選手人数	チーム名
1	東京	荒川区	10	west6
2	東京	荒川区	8	ドリーム☆ファイターズ
3	東京	武蔵野市	8	M.D.Cベディ
4	東京	調布市	9	深大寺アブレイズ
5	東京	荒川区	8	峡田ブラック
			43	

延べ参加者 **278** 名

【来場者数】 約440名

選手競技者(延べ) = 278名

同伴指導者／帯同応援者 = 120名(約)

スタッフ／来賓等関係者 = 40名



【対戦組合せと競技方法】

○ディスクトッチ部門 16チーム

予選リーグ戦 ➡ 4チームで構成するA/B/C/Dの4リーグ

順位決定戦 ➡ 予選順上位2チームによる決勝トーナメント戦で3位まで順位を決定

交流戦 ➡ 予選順下位2チームによる交流戦を6試合、おこなった

試合形式 時間 : 各3分30秒の前／後半

人数 : 1チーム10名 (元外野は3名配置)

使用ディスク 公式ミカサモデル 【250】Official RipStop を使用

勝敗決定 予選リーグ戦の同点は引分けとしては勝点制で順位を決定

※予選リーグ戦における順位決定の優先順

1)勝点の大きいチーム

2)得失点(総得点ー総失点)の大きいチーム

3)総得点数の多いチーム

4)総失点数の少ないチーム

5)直接対決での勝利チーム

6)ディスクフリップで決着

※順位決定戦で同点の場合、PT 戦で勝敗を決定

※決勝戦のみ、同点は3分一本通しの延長戦

◇ゴールドトッチ部門 5チーム

5チームで構成する変則トーナメント戦で1位と2位を決定

コートサイズ フィールド=18×36メートル / PTライン=5メートル

試合形式 時間 : 8分間の1本通し

人数 : 1チーム5名、試合中のメンバー交代は自由

使用ディスク 公式ミカサモデル 【270】Official RipStop を使用

勝敗決定 決勝戦以外の同点はディスクフリップで勝敗を決定

決勝戦のみ、同点は3分一本通しの延長戦

小学生関東王座決定戦 ディスクドッチ部門 予選リーグ表



常陸大宮市 美和 子ども会	勝点	M.D.C ペティ	勝点	国領 ゴリラパワー	勝点	梶田 ドッチビー クラブ	勝点	勝点 合計	得点	失点	得失点 差	順位
常陸大宮市 美和 子ども会		2-18 0		1-18 0		9-13 0 0						4
M.D.C ペティ	18-2 3		14-8 3		8-14 0 6							2
国領 ゴリラパワー	18-1 3	8-14 0			9-15 0 3							3
梶田 ドッチビー クラブ	13-9 3	14-8 3	15-9 3				9					1

オレが ついてるぜ !!	勝点	ヒビケ Ⅲ(スリー)	勝点	ドリーム☆ ファイターズ	勝点	石原ブラック サンダー	勝点	勝点 合計	得点	失点	得失点 差	順位
オレが ついてるぜ !!		11-8 3		11-10 3		14-5 3 9						1
ヒビケ Ⅲ(スリー)	8-11 0		6-17 0		8-13 0 0							4
ドリーム☆ ファイターズ	10-11 0	17-6 3			13-5 3 6							2
石原ブラック サンダー	5-14 0	13-8 3	5-13 0				3					3

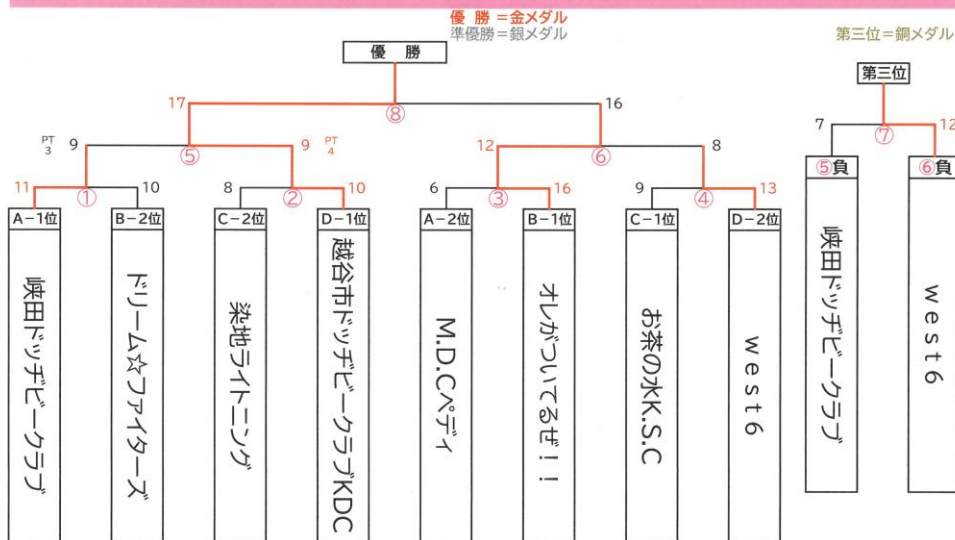
深大寺 ドッチビーサークル ペアーズ	勝点	お茶の水 K.S.C	勝点	染地 ライトニング	勝点	梶山 子ども会 (鉾田市)	勝点	勝点 合計	得点	失点	得失点 差	順位
深大寺 ドッチビーサークル ペアーズ		9-10 0		11-13 0		16-5 3 3						3
お茶の水 K.S.C	10-9 3		11-11 1		12-4 3 7	33 24 9 1						1
染地 ライトニング	13-11 3	11-11 1			13-7 3 7	37 29 8 2						2
梶山 子ども会 (鉾田市)	5-16 0	4-12 0	7-13 0			0						4

新☆中野 (邑楽郡)	勝点	越谷市 ドッチビー クラブ KDC	勝点	石原 おにぎり ボンバー	勝点	west6	勝点	勝点 合計	得点	失点	得失点 差	順位
新☆中野 (邑楽郡)		8-12 0		7-13 0		11-10 3 3						4
越谷市 ドッチビークラブ KDC	12-8 3		12-8 3		2-16 0 6							1
石原 おにぎり ボンバー	13-7 3	8-12 0			11-11 1 4	32 30 2 3						3
west6	10-11 0	16-2 3	11-11 1			4 37 24 13 2						2

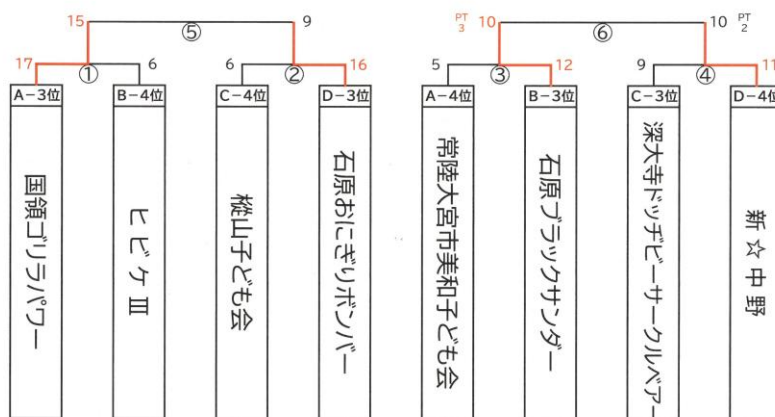
※ リーグ戦の順位決定は勝点制を採用。
 勝ち=3ポイント、引分け=両チームに1ポイント、負け=0ポイント
 ※ リーグ戦の勝点が高い場合の優先順位は別紙掲載

MIKASA250disc使用 10人vs10人 3分30秒の前・後半 9×18ftフィールド

小学生関東王座決定戦 ディスクドッチ部門 決勝トーナメント戦



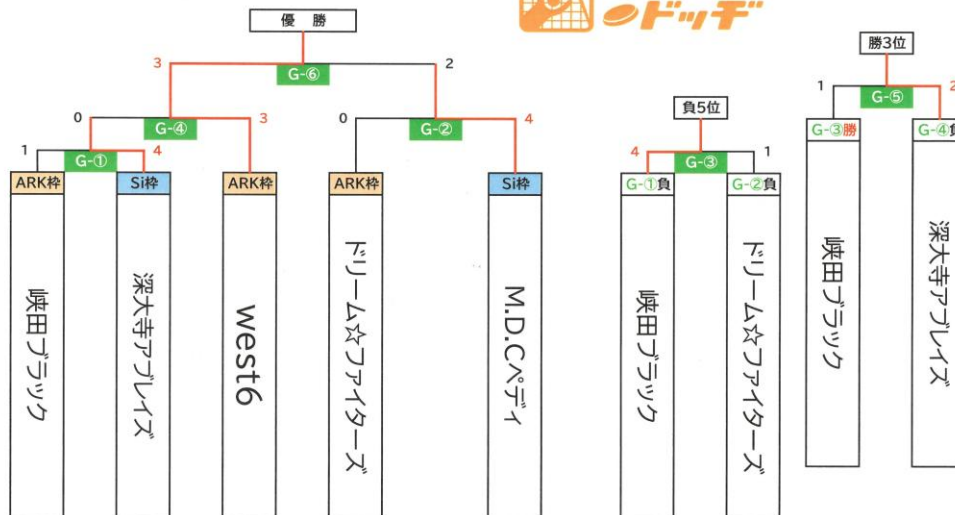
小学生関東王座決定戦 ディスクドッチ部門 交流戦 対戦表



- ※ 交流戦の試合形式はリーグ戦と同様、3分30秒の前・後半でおこなう。
- ※ 同点の場合、ゴールドドッチルール10-3に則ったPT(Penalty Throw)戦で勝敗を決する。

小学生関東王座決定戦 ゴールドドッチ部門 トーナメント対戦表

優勝=金メダル、準優勝=銀メダル



MIKASA270disc使用 5人vs5人 8分、1本通し
18×36 $\frac{1}{2}$ フィールド 5 $\frac{1}{2}$ PTライン

- ※ 決勝戦のみ、同点の場合、3分一本通しの延長戦をおこなう。
- ※ その他の試合が同点の場合、ディスクフリップで勝敗を決する。

【最終成績】 <表彰対象>

○ディスクドッチ部門

【優勝】越谷市ドッチビークラブKDC



◇ゴールドドッチ部門

【優勝】west 6



【準優勝】オレがついてるぜ！！



【準優勝】M. D. Cパディ



【第3位】west 6



●表彰と副賞

表彰対象チームにはDBJAより表彰状を授与。
また優勝チームにはメンバー全員に金メダルが、
準優勝チームにはメンバー全員に銀メダルが、
第3位チームにはメンバー全員に銅メダルが、
文化シャッター様ご提供により贈呈された。

さらに副賞としてミカサ様ご提供による
公式ディスクが各チームに贈呈された。



【参加賞】

ラングスジャパン様 ご提供

- ・ドッジビー・キーチェーン

文化シャッター様 ご提供

- ・2025プロ野球選手名鑑
- ・ウエットシート
- ・参加賞配布 ~ ビニール袋



<@ひとり分セット>



【大会写真・動画】

今大会では協会が設定した撮影専門スタッフによるプレー中の写真撮影をおこない後日、大会参加者に向けてグーグルドライブを使用して期間を限定した写真の閲覧およびダウンロードがリンクを知ってる方が無料でおこなえるサービスを実施した。

また、順位決定戦といくつかピックアップした試合を編集した動画をYouTubeで視聴できるようにアップする。

【運営所感】

2025年3月28日(金曜日)昨年に引き続き、2回目となる春休み期間中の平日に小学生のみを対象とする大会として
2024年度 小学生関東王座決定戦をおこないました。



この時期、小学生選手は春休みに入っていますが、スタッフには3月末で平日の金曜日開催は二つ返事で「はい、了解」とは言い難いことは十分に理解でき、スタッフの確保が重要な課題であることは事前に認識していましたので、今大会はスタッフのケアとして謝金増や大会終了後の懇親会の開催など、さらにはスタッフシャツの製作配布(終了後はお土産として持ち帰り)など、今までにない策を実施して今後も年度末の平日大会を継続するために「スタッフとして手伝いたい」と思ってもらえるような事前準備をおこないました。



協会スタッフは8時に集合しましたがこの朝、早い時間帯は横殴りの風雨に見舞われ、最寄駅から会場に到着した時はズボンの裾が絞れるびしょ濡れの状態でしたが協会認定資格者なども予定通りに集合。

参加選手が集まる10時前後にはすっかり雨は上がって、気温も上昇して暑さ対策の必要性を心配するほどに天候は回復しました。

主要スタッフには当日、2時間で準備を終えることを求めて苦勞を掛けましたが各スタッフ個人の習熟経験と事に役割分担をしっかりと伝えることで準備は整い、予定時間通りに開会式を開始することができました。



開会式ではドッジビーディスク製造元メーカー変更後、初めてとなる大型大会であるため㈱ラングスジャパン小林美紀社長にご挨拶をいただくとともに、販売ブースの出店をいただき大会に彩りを添えていただきました。



開会式終了後には参加チームが一堂に会しての全員が集まる写真の撮影をおこないましたが大型バスでまとまり来場する予定を組んでいた群馬・茨城からの3チームが高速道路の事故渋滞の影響で開会式に間に合わず、全チーム揃う集合写真に写れない事態は大変、残念なことでした。



その後、競技開始の合図における本部とフィールド審判員との連携で手間取ったことで数分間の遅れが発生しましたが、2コート同時にスローオフされ、大会は始まりました。

この大会は関東大会と銘打っていることから、出来るだけ早くに一都六県が揃うことを目指すことを大方針に、今回の想定総枠は16チームとして2種の募集形態を採用しました。



まずは先行枠として地域性などのバランスを図り、主催者選考で出場へのオファーをし、残りの枠を一般として募集する2段階の方式となります。

今回は先行枠として北関東方面の講習等で関係が出来た先様に声掛けをさせていただいて群馬より1チーム、茨城から2チーム

の参加があり五都県が集まり、関東大会としての陣容としては満足できるものとなりました。



ディスクドッジ部門を全体として表現すると大きな差は感じられず、突出した強豪の存在はない実力伯仲と言えたのではないかと、と思いますが試合展開について戦術・戦略やルール解釈などの考え方の違いから大会終了後も関係者から意見が集まるなどの反響がありました。



先に述べたチャンピオンシップ戦とコミュニケーション戦、どちらを見据えたルールなのか、勝ち負けにこだわるのはスポーツとして当然の事ですが小学生大会のあり方、などについて今後はチーム指導者の皆さんと会話をする機会の必要性を強く感じました。



それらチームの関係者に帰りがけに意見を聞いてみると、「勉強になった。良い思い出になった。」と嬉しい感想が聞けましたが、一方で東京近郊チームとの「チカラ差を感じた！」また「自分たちが出る場なのか？」といった意見もあって、一概に小学生という括りが正しいのか、チャンピオンシップ戦とコミュニケーション戦などの括りもあるなどなど、主催者として考えるべき課題も見えました。



なおディスクドッジでのトーナメント対戦での同点決着にPT戦を採用したことは盛り上がりを意識した導入でしたが、結果としてはPTのルールを熟知しない子どもたちを不安な気持ちにさせたことは主催者としての大きな反省点として肝に銘じ、今後の運営に生かします。



ゴールドドッジについては今回、初の試みとして小学生での部門募集をしました。当初は部門成立も怪しいのではないかと想定しましたが結果、5チームの参加をいただいたことは嬉しい誤算でした。協会としてはゴールドドッジ種目の想定対象は中学生以上としていましたが、今大会を見ると高学年であれば十分に小学生でも成立するものと実感するプレーを見ることができました。



また、初めてゴールドドッジを目にする選手・保護者も多くいることを想定してスタッフによるマイクでの実況とルールなど解説を入れることにしました。

今回のような試みがきっかけとなり小学生ゴールドドッジの参加が増えることを期待しますとともに、ディスクコントロールが重要なゴールドドッジを普及させることで多くの小学生の選手達、および関係者へ「ドッジビーディスクはぶつけるものではない」ということを訴えたく思います。

今後、小学生関東王座決定戦については未参加の千葉・栃木2県へのオファーや東京都内と隣接県政令都市等の枠、また静岡／愛知／山梨／長野県を想定とする近隣県ゲスト枠等を検討します。

最後に大きな事故やケガの発生なく無事に終了出来ましたことは関係する皆さまのご支援・ご協力の賜物と思い、心より感謝いたしますとともに御礼申し上げます。ありがとうございました。

今後も引き続き、ドッジビー普及活動へのご支援・ご協力を宜しくお願いいたします。

大会トーナメント・ディレクター 稲垣敬雄